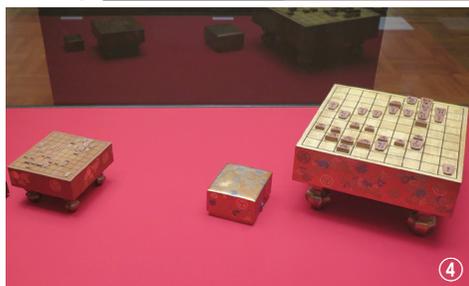


徳川美術館（愛知県名古屋市中区）

特別展
尾張徳川家の雛まつり

会期／2月5日(土) ▼ 4月3日(日)



①尾張徳川家三世代にわたる雛段飾り（明治～昭和時代、個人蔵）②有職雛（束帯姿）矩姫所用（江戸時代19世紀、徳川美術館蔵）③尾張徳川家伝来の雛道具の数々④写真左は菊折枝蒔絵雛道具の将棋盤で福君のもの（江戸時代19世紀、徳川美術館蔵）。右は実物の婚礼調度⑤徳川美術館にて開催中

徳川美術館

住所／愛知県名古屋市中区徳川町1017
電話／052193516262

徳川美術館「尾張徳川家の雛まつり」は今回で35回目を迎える。尾張徳川家三世代にわたる雛段飾りや伝来の雛道具など丁寧な飾り付けされた展示品はどれも豪華だ。中でも注目していただきたいのは「矩姫（尾張家14代慶勝正室）の有職雛」である。束帯姿の男雛と十二単を召した女雛はどちらも正装で気品に満ちている。「今回男雛の修理を実施した。黒い絹でできた頭髮と黒い衣裳（袍）が著しく傷んでいた。原因は黒く染めるために用いた鉄分。それが化学反応を起こした」（学芸員）。修理前と修理後を見比べると表情が異なって見えるから不思議だ。

もう一つの見どころは2つの将棋盤。尾張家11代斉温の継室・福君の婚礼調度の将棋盤と、そのミニチュアである雛道具。実際の将棋盤と差違はないほど完成度が高い。駒の並びは今年の大一番を再現しているとのこと。注目ポイント満載の同展は4月3日(日)まで。

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年 記念
愛しのほほえみ



②



①



④



③



⑥



⑤



⑦

①《おぼこ 雛 内裏雛》昭和6年(1931) ②野口園生《竹姫さま》昭和55年(1980) 田中秀代コレクション ③《賀茂人形 笑み》江戸時代 ④伝原舟月《古今雛》江戸時代 ⑤平田郷陽《這い子》昭和2年(1927) 頃 前島秀章・久代夫妻コレクション ⑥(右)「ゼンマイ仕掛けの編み物をする熊」(左)「ゼンマイ仕掛けの猿(陽気な猿の音楽隊3体のうち) マックス・カール社 1940～50年代 前島秀章・久代夫妻コレクション ⑦《三つ折れ御所人形》江戸時代 前島秀章・久代夫妻コレクション *掲載作品はすべて佐野美術館蔵

佐野美術館では、雛の時期にあわせて、同館のコレクションから優品を厳選して展示。名工と名高い原舟月作と伝わる古今雛などのひな人形をはじめ、御所人形などの日本の古人形から、明治時代の抱き人形、西洋のアンティークドール、近代作家の創作人形など、さまざまな「思わず微笑みを誘われるような人形たち」が勢揃い。時代を越えて愛されてきた人形たちに和まされ、何時間でもながめていられるラインナップだ。

なかでも注目は、今年新たに加わった幼子の姿をあらわした「おぼこ雛」。京都を代表する雛師のひとり・近江屋文助(近文・初代櫻木宗甫)のひな人形で、頭は名工十二世面庄こと面屋庄次郎の作。可愛らしさと高貴さを兼ね備えた、表情も豊かな五人飾り。三人官女、屏風、几帳、膳などの道具も揃って披露された。

御殿飾りや犬笛、雛図など、ひな人形の世界を堪能できることはもちろん、人形の魅力を存分に味わえる展示会だ。

佐野美術館

住所／静岡県三島市中田町1-43
電話／055-975-17278

第19回 人形のまち岩槻 (埼玉県さいたま市)

まちかど雛めぐり

会期 / 2月19日(土) ▼ 3月6日(日)



室町時代より栄えた城下町である岩槻は日本が誇る人形の産地だ。人形販売店はもちろんのこと、職人も目覚ましい活躍をしている。

この地で毎年開催されているのが「人形のまち岩槻 まちかど雛めぐり」。19回目となる今年は、2月19日(土)から3月6日(日)までの間イベントが開催され、岩槻のまちは華やかな春色に染まった。期間内は駅前の商店をはじめ、人形店や食事処など60以上の会場で雛人形などが展示された。「感染症の影響で中止となってしまう催しや展示もあり全て予定通りとはいかなかったが、期間中は晴天に恵まれる日が多く、多くの方にご来場いただいた」と関係者は話す。

イベント中は3つのテーマ「創る」「観る」「食べる」で岩槻のまち全体が盛り上がる。

「創る」は2月23日(祝)に木目込みストラップ製作体験がクレセントモール・ひな市会場で行われた。「食べる」も毎年人気でお昼時ほどこも人が多く、料亭ほいで家は予約で満席の日もあった。「天気も良いせいとお客様がたくさん来てくださり嬉しい。『満席です』と断るのが心苦しかった」と話す。「観る」の目玉は特別展示。8



ワッツ東館1階特設会場



ほてい家



第19回「人形のまち岩槻 まちかど雛めぐり」

場所 岩槻駅東口 周辺商店街
 主催 人形のまち岩槻 まちかど雛めぐり実行委員会
 共催 岩槻人形協同組合
 後援 さいたま市、埼玉県、さいたま商工会議所、
 岩槻商店会連合会、東武鉄道(株)ほか多数
 HP <https://hinameguri.com/>

つの会場にて、奉納ひな人形や江戸時代の古今雛とつるし雛といった歴史ある人形はもちろん、創作ひな人形や創作つるし飾りを見ることができた。

岩槻名所スタンプコレクションも実施。まちのあちらこちらで、パンフレットを片手に歩き回る人の姿を見かける。「寒いかと思っただけど歩くと暑く感じる。休憩場所もたくさんあるから、休みながら人形を愛でるのは良い」と参加者の気分も上々。一足先に訪れた春を満喫しているようだった。

人形のまち岩槻（埼玉県さいたま市）

第35回 流しびな

2月27日（日）／岩槻城址公園にて



写真上段右側：はじめに武州岩槻総鎮守久伊豆神社の馬場裕彦宮司による祈祷が行われ、次に岩槻人形協同組合、流しびな実行委員会の伴戸武三委員長による開会の挨拶が行われた

第35回「人形のまち岩槻 流しびな」

主催 岩槻人形協同組合
流しびな実行委員会
後援 埼玉県、さいたま市、さいたま
商工会議所、（公社）さいたま
観光国際協会、（公財）さいたま
市公園緑地協会、日本人形協
会埼玉支部、岩槻人形優良店会、
東武鉄道(株)、埼玉高速鉄道(株)

人形のまち岩槻の毎年恒例イベント「流しびな」が2月27日（日）に開催された。35回目となる今年は、快晴となり気温も上昇。会場となった岩槻城址公園菖蒲池には、家族連れをはじめ多くの人が訪れた。短冊に願いを書き込み、それをお殿様とお姫様が付いた棧俵に挟み込む。「お顔が違いますから好きなものを選んでください」と言われた来場者は好みの人形を選ぶ。棧俵は就労支援施設の方々が製作したもの。一つ一つ丁寧に編み込まれた棧俵に願いを込めて、参加者は流しびなを菖蒲池に流した。万全な感染症対策のもと行われた第35回流しびな。来年の開催も楽しみだ。